

千葉県総合計画 ～新しい千葉の時代を切り開く～ 【体系図】

第1章 計画策定の基本的な考え方

【計画策定の趣旨】

現在、台風等の自然災害や新型コロナウイルスの感染拡大などにより、県民生活や経済活動に甚大な被害・影響が及んでいる。また、本県においても、今後、人口が減少していくことが見込まれており、地域経済の縮小や都市・集落の機能低下などが懸念される。

こうした中、県では、感染症や防災対策などの喫緊の課題に対応し、県民の命と暮らしを守るとともに、海と緑に囲まれた自然環境や優れた都市機能を生かし、豊かな県民生活を実現できる「千葉の未来」を切り開いていくため、新たな総合計画を策定する。

【計画の性格】

県政運営の基本となるもので、本県の政策の基本的な方向を、総合的・体系的にまとめた県政全般に関する最上位の基本的かつ総合的な計画。本県が目指す将来像を示し、その実現に向けて、県民と共に取り組んでいくための道しるべとなるもの。

【計画の構成と期間】

基本構想編：10年後。

実施計画編：令和4～6年度までの3か年。

第2章 本県を取り巻く環境の変化と課題（基本構想編）

計画の策定に当たって把握すべき環境の変化と課題を以下のとおり11項目に整理した。

- (1) 感染症・災害等リスクの増大への対応、
- (2) 暮らしの安全・安心の確保、
- (3) 人口減少・少子高齢化への対応、
- (4) 社会経済情勢の変化への対応、
- (5) 半島性の克服と活用、
- (6) 医療・福祉ニーズの増加と健康志向の高まりへの対応、
- (7) 環境保全・持続可能な社会づくり、
- (8) 価値観・ライフスタイルの多様化への対応、
- (9) デジタル社会の推進、
- (10) SDGsの推進、
- (11) 行財政改革の推進

第3章 千葉県が目指す姿（基本構想編）

【基本理念】

～千葉の未来を切り開く～

「まち」「海・緑」「ひと」がきらめく千葉の実現

社会を取り巻く環境が複雑さを増し、将来の予測が困難な中でも、県民の命と暮らしを守るとともに、豊かな自然と文化、優れた都市機能を持つ千葉で、全ての県民が自身のライフスタイルを実現し、生きる価値、働く価値を感じられる「千葉の未来」を創造する。

【基本目標・目指す姿】

I 危機管理	II 産業・社会資本	III 医療・福祉	IV 子ども	V 共生	VI 自然・文化
危機管理体制の構築と安全の確保	千葉経済圏の確立と社会資本の整備	未来を支える医療・福祉の充実	子どもの可能性を広げる千葉の確立	誰もがその人らしく生きる・分かり合える社会の実現	独自の自然・文化を生かした魅力ある千葉の創造
【目指す姿:3項目】	【目指す姿:3項目】	【目指す姿:2項目】	【目指す姿:2項目】	【目指す姿:2項目】	【目指す姿:3項目】

【県づくりの方向性】 地域の特性・地理的条件等を踏まえた6つのゾーンを設定し、各地域の方向性を示した。

第4章 施策横断的な視点（実施計画編）

施策を着実かつ効果的に推進できる体制を構築するための視点として「県政運営を貫く3本の矢」。

1 県政運営を貫く3本の矢

- 千葉の総力を結集した県づくり（県と市町村との連携強化、民間活力の積極的な利用、県民との情報共有と協働、他都道府県との広域連携）
- 暮らしを豊かにするデジタル技術の効果的な活用（デジタル技術の効果的な活用による地域課題の解決、行政手続の改善、オープンデータ等の活用）
- 県民視点に立った効果的・効率的な行政組織への変革（行財政改革の推進、地方分権の推進）

複数の政策分野に関係するとともに、未来の千葉県を築いていく上で欠かせないSDGsの推進など3つの視点。

2 SDGsの推進、3 カーボンニュートラルに向けた取組の推進、4 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のレガシーの活用

第5章 重点的な施策・取組（実施計画編）

1 危機管理体制の構築	2 防災基盤の整備	3 暮らしの安全・安心の確保	1 経済の活性化	2 農林水産業の振興	3 社会資本の充実とまちづくり	1 医療提供体制の充実と健康づくりの推進	2 高齢者福祉と障害者福祉の充実	1 子育て施策の充実	2 教育施策の充実	1 共生社会の実現	2 連携・協働による社会づくり	1 千葉の魅力の向上と活用	2 環境の保全と豊かな自然の活用	3 スポーツ振興 千葉の特徴・歴史を生かした文化・
【施策】 2	【施策】 1	【施策】 3	【施策】 5	【施策】 3	【施策】 3	【施策】 2	【施策】 2	【施策】 3	【施策】 4	【施策】 3	【施策】 1	【施策】 2	【施策】 4	【施策】 2